

学校教育目標	○ 助け合う子 ◎ 考える子【重点目標】 ○ きたえる子	【目指す学校像】	○児童が、「学びがい」「やさしさ」「元気」を感じる学校 ○児童が、「自分らしさ」を発揮し、力強く前に進む学校
		【目指す児童・生徒像】	○すすんで学び、自分を高めようとする子ども ○自分を大切に、共に伸びようとする子ども ○心と体に関心をもち、たくましく生きようとする子ども ○自分のよさを自覚し、自己決定ができる子ども
		【目指す教師像】	○温かな教育をする教師 ○子どもを第一に考えて思考する教師 ○共成小の教育に貢献する教師 ○マネジメントできる教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	児童が自ら考え、活躍することができる、「分かる」「できる」を言葉で表すことができるよう、学習過程の改善を図る。	すべての児童が活躍できる、「分かった」「できた」喜びを実感できる授業をつくる。	「振り返り」の視点を示して、時間を確保し、児童が変容を実感できる授業を展開する。	4 振り返りの充実・・・90%以上	3	4 毎日「できた・分かった」と思った・・・90%以上	4	授業における振り返りは定着し、児童の変容を掴むのにも、児童自身の習得の実感にもつながっている。	学習したことをタブレットで再現できると、より復習の楽しさにつながると思う。	A	タブレットを使った振り返りやポートフォリオ化など新たな形も見られる。効果的な方法を校内で共有していく。
				3 振り返りの充実・・・80～90%		3 毎日「できた・分かった」と思った・・・80～90%					
				2 振り返りの充実・・・70～80%		2 毎日「できた・分かった」と思った・・・70～80%					
				1 振り返りの充実・・・70%未満		1 毎日「できた・分かった」と思った・・・70%未満					
豊かな心	児童が安全に、安心して通うことができる、保護者が安心して通わせることができる信頼される学校づくりを推進する。	自他を大切にできる気持ちや言葉を伝え合う場面を作り、互いに尊重し合う態度を育む。	タブレットなどICTを効果的・効率的に活用し、個に応じた指導を充実させる。	4 ICTを活用し、個に応じた指導ができた・・・90%以上	3	4 授業が分かりやすい・・・90%以上	4	児童がツールの一つとして自主的・主体的にICTの活用する場面が増えたことが大きな成果である。	活用の成果が自信につながり、学んだことに喜びを感じている様子が伺える。	A	教員間で情報共有しながら個別最適化された活用方法とその効果について検証・実践していく。
				3 ICTを活用し、個に応じた指導ができた・・・80～90%		3 授業が分かりやすい・・・80～90%					
				2 ICTを活用し、個に応じた指導ができた・・・70～80%		2 授業が分かりやすい・・・70～80%					
				1 ICTを活用し、個に応じた指導ができた・・・70%未満		1 授業が分かりやすい・・・70%未満					
健やかな体	児童が自分の心と体の健康に関心をもち、健康の保持・増進に関する意識を高め、よりよい生活習慣や食事について考え実践する態度を育む。	「いじめ問題」はいつでも誰にも発生し得ると認識し、未然防止と早期対応に努める。	児童のサインをキャッチし、情報共有の日常化を図り、組織的対応を行う。	4 「あいさつ・返事」の指導に取り組んだ・・・90%以上	4	4 「あいさつ・返事」ができる・・・90%以上	3	教員が「あいさつ・返事」の大切さを理解し、しっかりと指導に取り組む、効果があった。	いつ学校へ来ても、元気なあいさつが返ってくる。すばらしい取組であった。	A	地域・家庭と連携したあいさつの取組を通して、安心・安全な環境づくりを推進していく。
				3 「あいさつ・返事」の指導に取り組んだ・・・80～90%		3 「あいさつ・返事」ができる・・・80～90%					
				2 「あいさつ・返事」の指導に取り組んだ・・・70～80%		2 「あいさつ・返事」ができる・・・70～80%					
				1 「あいさつ・返事」の指導に取り組んだ・・・70%未満		1 「あいさつ・返事」ができる・・・70%未満					
輝く未来	多くの人と、かわり合い、学び合い、認め合いのある温かな集団の中で、児童が自己のよさを実感し、自信をもって、自分らしさを発揮できる教育活動を推進する。	児童自身が体力向上の成果を実感できるよう、組織的・継続的に指導する。	健康の保持・増進についての理解を深め、望ましい生活習慣に向け実践的態度を育む。	4 児童の課題に沿った運動に取り組ませた・・・90%以上	2	4 体力調査の数値が上がった・・・90%以上	4	運動が楽しいと感じる児童は増えていくが、体力調査の数値が低く、危機感をもっている教員が多い。	体を動かすときも声が出せると、より大きな運動量になっていく。今後の成果に期待する。	A	独自の効果検証など、学校として課題意識をもちながら体力向上への取組を継続している。
				3 児童の課題に沿った運動に取り組ませた・・・80～90%		3 体力調査の数値が上がった・・・80～90%					
				2 児童の課題に沿った運動に取り組ませた・・・70～80%		2 体力調査の数値が上がった・・・70～80%					
				1 児童の課題に沿った運動に取り組ませた・・・70%未満		1 体力調査の数値が上がった・・・70%未満					
輝く未来	児童同士が協働し認め合う場を意図的に設定し、自己肯定感・自己有用感を育む。	健康の保持・増進についての理解を深め、望ましい生活習慣に向け実践的態度を育む。	「元気アップガイドブック」の活用、「グッドモーニング60分」の取組により、児童自身の意識化を図る。	4 「元気アップガイドブック」を活用した・・・90%以上	2	4 規則正しい生活習慣を意識している・・・90%以上	2	元気アップガイドブックを有効に指導に役立てることができず、児童への意識づけも不十分であった。	この3年間ではみんなが運動不足を実感している。繰り返し家庭への働きかけも重視してほしい。	B	家庭とも連携した取組として体力向上を目指す。実効性のあるものにする。
				3 「元気アップガイドブック」を活用した・・・80～90%		3 規則正しい生活習慣を意識している・・・80～90%					
				2 「元気アップガイドブック」を活用した・・・70～80%		2 規則正しい生活習慣を意識している・・・70～80%					
				1 「元気アップガイドブック」を活用した・・・70%未満		1 規則正しい生活習慣を意識している・・・70%未満					
輝く未来	児童が主体的に活動する場を設定し、児童が主体的・自己決定し、行動する力を育む。	SOSの出し方や心のもち方についての学習を継続し、相談できる体制・人間関係をつくる。	心のもち方を指導し、教師から声をかけた・・・90%以上	4 心のもち方を指導し、教師から声をかけた・・・90%以上	4	4 困ったときに相談できる・・・90%以上	4	日常の指導や特別の教科道徳においても援助を求めよう方法について学んでいる。5・6年生で「心の教室」を実施した。	子供が自信をもって安心して相談できる空気が広がっていると思う。	A	道徳や特別活動の取組を充実させ、児童の自己肯定感を高め他者も大切にできる心情を高める。
				3 心のもち方を指導し、教師から声をかけた・・・80～90%		3 困ったときに相談できる・・・80～90%					
				2 心のもち方を指導し、教師から声をかけた・・・70～80%		2 困ったときに相談できる・・・70～80%					
				1 心のもち方を指導し、教師から声をかけた・・・70%未満		1 困ったときに相談できる・・・70%未満					
輝く未来	児童同士が協働し認め合う場を意図的に設定し、自己肯定感・自己有用感を育む。	健康の保持・増進についての理解を深め、望ましい生活習慣に向け実践的態度を育む。	「ありがとう」をキーワードに、児童が相互に承認する活動に取り組む。	4 児童が主体的に活動する場を設定した・・・90%以上	3	4 学級や行事で自分で考えて行動できた・・・90%以上	3	行事の実行委員、縦割り班の「なかよしタイム」の活動により、集団の中で主体的に考えて行動できる力が育まれた。	学年関係なく本当に仲の良い学校だと思う。現状を維持してほしい。	B	行事の実行委員制度を定着させ、高学年の児童の活躍を低学年のモデルとして、児童が主体的に活躍する学校にしていく。
				3 児童が主体的に活動する場を設定した・・・80～90%		3 学級や行事で自分で考えて行動できた・・・80～90%					
				2 児童が主体的に活動する場を設定した・・・70～80%		2 学級や行事で自分で考えて行動できた・・・70～80%					
				1 児童が主体的に活動する場を設定した・・・70%未満		1 学級や行事で自分で考えて行動できた・・・70%未満					
輝く未来	児童が安心して「自分らしさ」を発揮できる望ましい集団作りを目指す。	健康の保持・増進についての理解を深め、望ましい生活習慣に向け実践的態度を育む。	「ありがとう」をキーワードに、児童が相互に承認する活動に取り組む。	4 児童同士が認め合う活動に取り組んだ・・・90%以上	3	4 児童のよさを理解している・・・90%以上	3	互いを認め合う活動を教員がしっかりと行っている。自分のことを好きと回答している児童も前期より増えた。	ありがとううれい表情が、自分と相手を認めて次のステップに行きつけかけになると思う。	A	引き続き、児童が自分の良さを実感できる取組やその機会を数多く設け、自己有用感を高めさせていく。
				3 児童同士が認め合う活動に取り組んだ・・・80～90%		3 児童のよさを理解している・・・80～90%					
				2 児童同士が認め合う活動に取り組んだ・・・70～80%		2 児童のよさを理解している・・・70～80%					
				1 児童同士が認め合う活動に取り組んだ・・・70%未満		1 児童のよさを理解している・・・70%未満					
輝く未来	児童が安心して「自分らしさ」を発揮できる望ましい集団作りを目指す。	健康の保持・増進についての理解を深め、望ましい生活習慣に向け実践的態度を育む。	年2回のQUを活用し、学級や児童個々の状況に応じた指導を展開する。	4 望ましい集団作りを図る取組を行った・・・90%以上	3	4 学校生活が楽しいと感じている・・・90%以上	2	前期よりも楽しく感じている児童の割合が下がっている。アンケートや聞き取りにより、児童に寄り添い、丁寧に個別の課題の解決を図る。	学校は楽しいと思わない児童の割合が下がっている。先生方の温かい心が伝わるよう地域も支援していく。	B	次年度は2回目のQUテストは全学年実施し、学級や教員に応じた講師の指導を全学級の学級経営に活かす。
				3 望ましい集団作りを図る取組を行った・・・80～90%		3 学校生活が楽しいと感じている・・・80～90%					
				2 望ましい集団作りを図る取組を行った・・・70～80%		2 学校生活が楽しいと感じている・・・70～80%					
				1 望ましい集団作りを図る取組を行った・・・70%未満		1 学校生活が楽しいと感じている・・・70%未満					